

令和 3 年12月

青 藍 会 会 報

第 98 号

徳島大学医学部医学科同窓会

写真題目：「蝉・桜と私」（31頁）
作成者：太田 房雄
画素数：3.7MB
ファイル名：JPGファイル
作成日：2021年7月29日
カメラ：Nikon COOLPIX950
色素間：RGB
カラープロファイル：sRGBIEC61966-2.1
焦点距離：26.2mm（手動焦点）
F値：f/4.5
露出プログラム：標準
露出時間：1/60秒

信頼

滋慶医療科学大学大学院
教授 木内 淳子



2021年度 青藍会賞募集

青藍会では学術研究の発展と奨励のために
青藍会賞を設けています。

若手研究者の応募をお待ちしています!!



応募締切 2022年1月24日（月）

詳細は21ページをご覧ください

—頑張りの回路にスイッチを入れる—

久野 悟 郎 (医学部15期)

学生時代に経験したことで記憶に残っていることは人様々であると思うが、私の記憶の中に positive な印象として残っているものがいくつかある。教科書的な授業の中にもご自身の研究内容や今後の問題点などをちりばめた講義は何かしら前向きの印象を感じさせた。酵素研究所の先生方の印象も強い。荒縄を腰に巻いて教壇に立った教授や上半身裸で図書館横の空き地で真剣を振り回していた教授の姿は研究者であると同時にエネルギーで衝撃的で「オーやるな」と思わず笑みが浮び、思考回路に活が入った思いが残っている。そんなこともあり私は学生時代酵素研で定期的に開かれた英文の文献の抄読会に参加していた。当時読んだ TCA サイクルに関する文献は今でも糖尿病の患者さんを診察するときの基礎知識として頭に浮かぶ。時代の変遷による影響も大きいものがあつた。私達の世代は医学紛争がそれに当たる。卒後研修として続いていた「イン

ターン制度」が役に立っていないとして廃止になり、当時青年医師連合（青医連）のもとで自分の研修は自分でアレンジする形となった。私の場合郷里である松山に近い八幡浜市立総合病院に行くことになった。もともとは京大系の病院であったが京大から人は来ず、徳島に声が掛った形であった。その病院にとっても初めてのことであったと思うが、かなり周到な計画を立てて頂いたようで、それに乗って医師としての厳しかったけれども良いスタートが切れたとの思いが残っている。半年間で50例の各種内科疾患を担当し、退院サマリーのチェックを受けた。その間の1つのエピソードとしてフィラリア糸状虫の患者を見つけ、保健所に報告、新聞にも報道された。その後徳島に帰り呼吸器を勉強するために板西療養所（現東徳島病院）に就職しその流れで結核行政の中心的役割を果たしていた東京清瀬の財団法人結核研究所の長期研修に参加できた。そこでは肺の病理標本と同一患者の生前のX線断層写真が多数保存されており、病理を背景とした読影実習はその後の呼吸器疾患を見る時の基本となった。その時講義や実習で会った結研・癌センター・心研（女子医大）の先生方の力強い姿も印象深かった。昭和46年東京での研修中に徳島大学に第3内科が開講となり、翌47年1月付で大学に帰ることになった。現在の青藍会館に接した兵舎を改造した正に0からの出発であった。初代螺良教授は大阪人らしく「おおらかな人格」の先生であった。後年がん転移の研究のためにアメリカに行けと言われ渋った私に「四の五の言わず行ってこい」と背中を押してくれワシントン郊外でFidler博士のもと家族共々2年間を過ごした。このことは結果的に広い世界を見て、広い視野で物事を考え判断できる意識の変革が私の中で起こったことを後々気付くことになった。

私は今までの人生でいろいろな場面で人を育てようとする先生方に出会っている。人が育つためには知識の蓄積は必要であるが仕事をし続けるためには情熱が必要である。人を育てる人は自らも育つ力を持つ人であり、その姿が周囲の人の心にも努力する情熱のスイッチを入れているように思う。育つ力、育てる力は伸びる力、伸ばす力である。よい流れの中に人を乗せてやることも大切である。「ほめてやらねば人は育たず」との山本五十六の言葉も名言と思う。青藍会という医学部同窓会の役割は大学発展の「縁の下での力持ち」になることである。同窓会として何をすれば人の心を突き動かせるのか、課題は多いが、皆で考え行動を続けることが大学の発展につながると信じている。

目次

○題 字	木 内 淳 子
○写 真	太 田 房 雄
○2021年度青藍会賞募集	
○巻 頭 言	久 野 梧 郎
○令和3年度青藍会総会（ハイブリッド開催）	1
青藍会会長挨拶	荒 瀬 誠 治 1
医学部長挨拶	赤 池 雅 史 3
議事要録	4
支部報告	4
事業報告	9
会計報告	11
学術講演抄録	篠 原 尚 15
2020年度青藍会賞選考過程について	安 友 康 二 18
2020年度青藍会賞受賞講演	原 田 武 志 18
○2021年度青藍会賞募集	21
○青藍会の助成活動	
卒後臨床研修センターの活動報告	安 倍 正 博 22
○元徳島大学長 香川征先生ご逝去	23
	玉 置 俊 晃 24
	金 山 博 臣 24
○支 部 だ よ り	
北 海 道 支 部	石 丸 裕 晃 26
東 京 支 部	濱 本 恒 男 26
広 島 支 部	濱 脇 純 一・堤 保 夫 27
兵 庫 支 部	檜 林 勇 28
○会 員 通 信	
肝内胆管細胞癌の予後を良くする方策について	田 代 征 記 29
眉山逍遙の歌	久 野 梧 郎 30
蝉・桜と私	太 田 房 雄 31
Covid-19 に対する徳島大学の貢献	板 東 浩 31
17期生の同窓会は、さらに延期します	村 澤 正 甫 32
Covid-19 の闘いの中で	本 田 壮 一 33
渡辺恒明君を偲んで	國 重 昭 郎 34
俳 句	小 谷 雄 二・雫 俊 一・駒 木 幹 正・真 鍋 正 広 36
○徳島大学の動き	
徳島大学大学院医歯薬学研究部新任教授紹介	脇 野 修 37
	森 野 豊 之 38
	滝 沢 宏 光 39

	吉 川 幸 造	40
	新 家 崇 義	41
徳島大学病院新任教授紹介	板 垣 大 雅	42
○準会員だより		
6年目の新生活	加 島 嵩 之	43
医学科二年目の生活	姜 泰 成	43
○青藍会の動き		
教授就任のご挨拶	大 林 茂	45
病院長就任のご挨拶	谷 田 信 行	46
	西 角 彰 良	46
	橋 口 修 二	47
	加 藤 真 介	47
	葉 久 貴 司	48
青藍会人事（評議員名簿・支部長名簿・役員名簿・委員会名簿）		49
事務長就任のご挨拶	小 西 竹 生	53
会員の異動（令和3年10月1日現在）		54
物 故 者		55
青藍会会費納入状況		56
会費納入のお願い		57
事務局からのお願い		58
○投 稿 規 定		60

第38回青藍会・医学科講演会の開催中止について

令和3年7月、徳島大学が蔵本祭の開催を中止したことに準じ、
青藍会・医学科講演会の開催も中止することとなりました。

ご報告申し上げます。

青藍会賞募集

2021年度青藍会賞募集

2021年度青藍会賞を下記のとおり募集します。

本賞は青藍会会員による学術研究の発展と奨励のために、若手研究者の優れた業績に対して授与するものです。奮ってご応募下さい。

1. 応募資格

2021年12月末現在で42才未満の青藍会正会員
但し、2021年度までの会費完納入者であること。

2. 審査対象

2017年1月から2021年12月までの研究業績を対象とします。
なお、選考では徳島大学で主として行われた研究であることを重視します。

3. 応募締切

2022年1月24日（月）（応募締切り後は提出書類の変更を認めません）

4. 応募手続

以下の書類を青藍会事務局へ提出して下さい。（原本とコピー各10部をご用意下さい）

1. 申請書（別紙様式1）
2. 履歴書（略歴）（別紙様式2）
3. 主指導者の推薦状（別紙様式3）
4. 原著論文（2017年1月～2021年12月末に発刊された原著論文；通し番号をつけ、年代の近い順に記載し、主たる論文3編には通し番号に○をつけること。主たる論文は筆頭著者の論文に限定しない。応募者には下線をひくこと。）（別紙様式4）
5. 主たる論文3編の要旨（各400字程度）（別紙様式5）
6. 主たる論文3編の別刷り（コピー可）
7. 競争的資金の獲得状況（2017年1月～2021年12月末までに獲得した研究費の名称、研究期間、研究題目、直接経費の研究費総額。研究代表者の資金に限る。）（2021年12月末時点で採択が決定したものも含む）（別紙様式6）
8. 今後の研究の展望（800字程度）（別紙様式7）

なお、同一推薦人が複数者を推薦する場合は推薦順位をつけること。

申請書等の各様式は青藍会事務局（seiran@tokushima-u.ac.jp）にご請求下さい。

5. 選考

青藍会会長から委嘱された選考委員会が行います。

6. 受賞者数

原則1名

7. 青藍会賞の授与

賞状及び研究助成金100万円の目録を青藍会総会開催日に授与します。

研究助成金は受賞者あてで教室への委任経理金（奨学寄附金）とします。

8. 受賞講演

青藍会総会開催日当日、受賞講演を行っていただきます。（30分程度）

お問合せ先

青藍会事務局 TEL 088-633-7109（内線2601）
seiran@tokushima-u.ac.jp

青藍会の助成活動

卒後臨床研修センターの活動報告

卒後臨床研修センター長

安倍 正 博（医学部30期）

青藍会の皆様方には、日頃多くの研修医をご指導いただき、また徳島大学病院卒後臨床研修センターにご支援を賜り、誠にありがとうございます。そして、新型コロナウイルス感染第5波の拡大の対応に各病院が苦慮されている中で、研修医の受け入れやご指導を賜り、まずは敬意と共にお礼を申し上げます。大学病院の研修プログラムは、県外の研修病院や地域の診療所など複数の施設で研修経験を積む、襷掛けの研修を特徴としておりますので、県を跨ぐ研修医の移動の制限などにより大きな影響を受けました。感染対策のために教育講座やセミナーのオンライン形式での開催や、少人数での個別講習の開催などを準備し、また急な研修プログラムの変更に対しても、受け入れ先の確保や調整に当センター教官とスタッフが尽力し、全ての研修医の研修が滞りなく進められていることにも感謝をしております。

新型コロナウイルス感染拡大により、徳島県立中央病院と合同で開催し、多くの施設の研修医や医療従事者が参加していた「メディカルゾーンセミナー」、また多様な領域で活躍している先輩を講師としてお招きし、研修医が講師の先生を囲み直接話をしながら将来像を描いてもらう企画として、毎年9月に行なっていた「学生・研修医のためのキャリアデザインセミナー」などは昨年と同様に中止になりました。各種セミナーやカンファレンスも感染制御部の指導のもとテレビ会議システムを用いたオンライン参加の形式で行うことが多く、研修プログラムのマッチングのための学生との面接もオンラインで行いました。このコロナ禍で、以前のような食事や誕生会などの何気ない集まりが寸断された状態が続いています。医師は人と人のつながりを生業とす

る職業ですが、同級生、同期のこのような対面での何気ない日常の集まり、人と人の付き合い・つながりが、学生の病棟実習や初期臨床研修において、いかに将来の医師としての人格形成に大事であるかということをしみじみ感じております。

徳島大学病院の研修プログラムは、本来各協力病院や診療所、施設との連携を密にし、研修医のひとりひとりの要望に答える形で、各病院の特徴を活かした融合研修を進めていました。このような連携研修を通し、徳島県全体で医師を育てる、“All 徳島”での研修環境を構築し、徳島県の若手医師育成と医療の質の向上に寄与するのが本来の目標でしたので、ポストコロナを見据え、研修医の育成について、もう一度原点に返り、皆様方と一緒に柔軟に取り組みたいと考えております。今後とも皆様方には卒後研修に対しご理解と共にご指導・ご支援を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。



スキルスラボでの研修
感染対策を施しながら、実技の研修を受けています。

徳島大学の動き

徳島大学大学院医歯薬学研究部新任教授紹介



徳島大学大学院医歯薬学研究部

腎臓内科学分野

脇野 修（わきの しゅう）

昭和39年9月20日生

略 歴

平成2年	慶應義塾大学医学部卒
平成7年	慶應義塾大学医学部腎臓内分泌代謝内科大学院卒業
平成9年	医学博士取得（指導：猿田享男）
平成11年	米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）医学部留学（指導：Prof. Willa A. Hsueh）
平成13年	浜松赤十字病院内科副部長
平成14年	慶應義塾大学救急部助手
平成16年	慶應義塾大学医学部腎臓内分泌代謝内科助手
平成22年	慶應義塾大学医学部腎臓内分泌代謝内科専任講師
平成27年	慶應義塾大学医学部腎臓内分泌代謝内科准教授
令和3年	徳島大学大学院医歯薬学研究部腎臓内科学分野教授 （現在に至る）

就任のご挨拶

徳島大学大学院医歯薬学研究部腎臓内科学分野
教授 脇野 修

4月1日土井俊夫名誉教授の後任として大学院医歯薬学研究部腎臓内科分野教授に着任いたしました。青藍会の諸先生に置かれましてはいつも医局の活動を支えていただき大変感謝いたしております。わたくしは前任地慶應義塾大学では生活習慣病にかかわる腎障害や、腎臓を中心とする臓器連関、末期腎不全患者の栄養に関する基礎および臨床研究を行ってきました。臨床では腎臓内科の医療だけでなく腎不全の危険因子への予防医療や終末期医療である透析医療にかかわりました。徳島大学着任後、病院長の香美教授からは総合腎臓センター構想の実現のご指示を受け、現在透析カンファ、腎移植カンファ、小児腎カンファを始めております。また糖尿病、リハビリテーション科の先生方のご指導で糖尿病性腎症重症化予防のためのパス入院を立ち上げるところであります。病院の医療に貢献できるようシステムを構築中であります。また、院外活動として徳島県内の腎臓病医療を充実させるために、地域の先生方との連携を行っております。阿南医療センター院長の玉置先生からは徳島県内への腎臓病専門医の派遣が急務とのご指導いただきました。自然豊かな徳島県へは家族全員が移住してまいり、当地に骨を埋める所存であります。今後とも青藍会の諸先輩の先生方のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。



徳島大学大学院医歯薬学研究部
遺伝情報医学分野
森 野 豊 之（もりの ひろゆき）
昭和44年10月22日生

略 歴

平成6年3月	広島大学医学部医学科卒業
平成6年4月	広島大学大学院医学系研究科内科系専攻入学
平成7年6月	広島県立広島病院（内科）医師
平成12年4月	広島大学医学部内科学第三講座医員
平成12年6月	倉敷平成病院神経内科医長
平成12年9月	翠清会梶川病院神経内科医長
平成13年4月	広島大学大学院脳神経内科医員
平成17年4月	土谷総合病院神経内科医長
平成18年3月	広島大学原爆放射線医科学研究所放射線疫学研究分野助教
平成22年4月	広島大学原爆放射線医科学研究所分子疫学研究分野助教
平成26年6月	広島大学原爆放射線医科学研究所分子疫学研究分野准教授
令和2年4月	広島大学大学院医系科学研究科脳神経内科学准教授
令和3年6月	徳島大学大学院医歯薬学研究部遺伝情報医学分野教授 （現在に至る）

就任のご挨拶

徳島大学大学院医歯薬学研究部遺伝情報医学分野
教授 森 野 豊 之

令和3年6月1日付けで大学院医歯薬学研究部遺伝情報医学分野の教授を拝命いたしました。当教室は病態生理学分野から遺伝情報医学分野へと分野名が変更されました。私は平成6年に広島大学を卒業すると同時に第三内科（現脳神経内科）に入局し、広島大学病院および関連施設にて臨床の研鑽を積んでまいりました。その後、原爆放射線医科学研究所で遺伝学の研究を行い、遺伝性神経疾患をはじめとして麻酔科疾患や歯科疾患の原因遺伝子を解析し、いくつかの新規原因遺伝子を同定してきました。さらに、同定した遺伝子の病因機序を解明するため、CRISPR/Cas9などのゲノム編集技術を応用してモデル動物やモデル細胞を作製し、生化学的および生理学的解析から病態や新たな治療標的を明らかにする研究を行ってきました。また、主に神経変性疾患で孤発例を含む患者集団を用いて遺伝的要因の頻度を調べる疫学的な解析にも携わりました。次々に開発される核酸医薬やがんゲノム医療といった遺伝学的知識のニーズが高まっている昨今、徳島ならびに四国の医療・医学の分野に貢献できるよう全力で取り組む所存です。青藍会の先生方におかれましては今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



徳島大学大学院医歯薬学研究部
胸部・内分泌・腫瘍外科学分野
滝沢 宏光 (たきざわ ひろみつ)
昭和46年11月19日生

略 歴

平成8年6月	徳島大学医学部附属病院医員
平成9年4月	高松赤十字病院外科医師
平成11年4月	土佐市民病院外科医師
平成12年4月	徳島大学医学部附属病院医員
平成13年4月	徳島大学医学部附属病院助手
平成13年10月	徳島大学医学部附属病院医員
平成14年4月	町立半田病院外科医師
平成15年4月	徳島大学医学部附属病院助手
平成17年4月	徳島赤十字病院フェロー医師
平成19年4月	徳島大学病院講師
平成28年4月	徳島大学大学院医歯薬学研究部胸部・内分泌・腫瘍外科学分野准教授
平成28年10月	トロント大学胸部外科研究所留学
平成29年4月	徳島大学大学院医歯薬学研究部胸部・内分泌・腫瘍外科学分野准教授復職 併任徳島大学病院がん診療連携センター長（－平成31年3月）
令和2年5月	徳島大学病院病院教授
令和3年8月	徳島大学大学院医歯薬学研究部胸部・内分泌・腫瘍外科学分野教授 （現在に至る）

就任のご挨拶

徳島大学大学院医歯薬学研究部胸部・内分泌・腫瘍外科学分野
教授 滝沢 宏光（医学部42期）

丹黒章前教授の後任として、令和3年8月1日付で、大学院医歯薬学研究部 胸部・内分泌・腫瘍外科学分野教授を拝命いたしました。青藍会の先生方に謹んでご挨拶申し上げます。

私は平成8年に徳島大学を卒業後、教室の前身である第二外科に入局し、徳島大学および関連施設で研鑽を積んでまいりました。平成28年にはカナダトロント大学に研究留学する機会をいただき、帰国後は徳島大学病院がん診療連携センター長として、徳島県のがん対策事業に関わり、県内の多くの青藍会の先生方と連携して仕事をさせていただく機会にも恵まれました。

私は呼吸器外科および甲状腺外科を専門としており、研究面では特に肺癌の低侵襲治療に関連する診断・治療法の開発に携わっております。今後も患者さん一人一人に最適な治療を提供することを目標として臨床および研究に取り組むとともに、若い人達に外科の魅力を伝え一人でも多くの外科医を育成し、徳島の地域医療にも貢献することができるよう全力で邁進する所存です。

青藍会の先生方には、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



徳島大学大学院医歯薬学研究部
実践地域診療・医科学分野
新家 崇義（しんや たかよし）
昭和50年11月17日生

略 歴

平成13年 3 月	岡山大学医学部医学科卒業
平成13年 5 月	岡山大学医学部附属病院医員（研修医）
平成14年 7 月	岡山赤十字病院研修医
平成16年 4 月	医療法人圭良会永生病院放射線科医師
平成18年 4 月	岡山大学医学部・歯学部附属病院放射線科医員
平成19年 1 月	公益財団法人操風会岡山旭東病院 PET・RI センター長
平成22年 4 月	岡山大学病院放射線科医員
平成23年 4 月	岡山大学病院放射線科助教
平成27年 4 月	徳島大学病院放射線部講師
平成29年 4 月	岡山大学病院小児放射線科講師・科長
平成31年 4 月	岡山大学病院放射線科講師
平成31年 4 月	独・ハイデルベルグ大学
令和元年10月	川崎医科大学総合放射線医学講座准教授
令和 3 年 4 月	徳島大学大学院医歯薬学研究部実践地域診療・医科学分野特任教授 （現在に至る）

就任のご挨拶

徳島大学大学院医歯薬学研究部実践地域診療・医科学分野
特任教授 新家 崇義

令和 3 年 4 月 1 日付で徳島大学大学院医歯薬学研究部 実践地域診療・医科学分野の特任教授を拝命致しました。この場をお借りしまして、青藍会会員の先生方に、謹んでご挨拶申し上げます。

私は香川県出身で、平成13年に岡山大学医学部医学科を卒業後、放射線診断や放射線治療を学びたいと考え、岡山大学及び関連施設にて研鑽を積んで参りました。平成27年から平成29年の2年間、徳島大学病院放射線部にて勤務させて頂いた後、岡山大学、川崎医科大学を経て、徳島大学大学院医歯薬学研究部に赴任させて頂きました。専門はPET・核医学で、腫瘍核医学や肺移植後疾患の新たな画像診断法の開発研究に主に従事して参りましたが、CTやMRIでの画像診断の診療・教育・研究にも取り組んでおります。良質な地域医療を支える放射線診療を行うためには、専門医の研鑽の継続とともに、若い人材の育成が重要と考えております。放射線診療では全身の臓器を新しい診断・治療技術で診察・治療をすることができる、という魅力を、若い世代の皆様と共有し広めていくために、微力ながら努力して参る所存です。今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。末筆ではございますが、青藍会の益々のご発展を祈念し、就任のご挨拶とさせていただきます。

準会員だより

6年目の新生活

加 島 嵩 之 (医学科6年)

医学部に入学してもう5年が経ち、あともう少しで卒業というところまでできました。とても早かったように思い返してみれば多くのことを学びました。1・2年生では基礎医学について多くの知識を学ばせていただきました。3年生では研究室に配属され今まで学習した内容を存分に活かすことができ、テーマに沿った発表も行うことができ6年間の折り返しとしてはとても満足しました。4年生では臨床系の授業が多く、いよいよ医師になっていくのだなと実感し身も心も引き締まる思いでした。5年生では実際に病棟で患者さんと触れ合う機会も多く、今までは教科書の中だけだったことを実際の現場で体験できるということに感動を覚えました。しかし、新型コロナウイルスの影響でパソコンを使った遠隔での授業となったこともあり、患者さんに関わる機会が少なくなったものの実際に患者さんを目の前にした時にどういってお話ができるかを頭の中で想定しながら実習を行いました。6年生では大学で学んだ知識以上のことを他の病院で学ぶことができました。そしてマッチング試験も終わり、あとに残すは卒業試験と国家試験となり、まだまだ自身が知識不足であることを感じながら日々勉強に励んでいます。また、新型コロナウイルスのパンデミックによって、医療の現場は混乱し、私たち学生の生活も部活動の制限などのように非常に窮屈なものになっていますが、その中でも勉学・スポーツ・遊びをメリハリをつけて行い、医学生としての自覚ある生活を過ごしていきたいと思っています。これまでのところ、徳島県では幸いにもワクチンの普及が始まり、感染者は少数にとどまっていますが、今後も感染に対してより一層の注意をしていく必要があると思われます。県外へ行くのも自粛せざるを得ない状況で旅好きとしてはつらい面もありますが、残り少ない時間の中で、徳島の山や海など自然の素晴らしさを再発見したいと思っています。これからも新型コロナウイルスに対して気が抜けない日々を過ごすことになりそうですが、皆様がお元気で日々を過ご

されることを心よりお祈り申し上げるとともに、皆様方の活躍の場が制限されませぬようお願いしております。

医学科二年目の生活

姜 泰 成 (医学科2年)



徳島大学医学部に入学してから、一年と半年の月日が流れました。まだ2年という入学してあまり長くはない年月しか経過していませんが、これまでの医学科生活について述べていこうと思います。

入学して一年目の時はコロナが蔓延し始めた年でした。そのため、一年目の授業はほとんどがネットを使ったオンラインによるものでした。普段であれば開催されていた授業選択のための会もなく、先輩からの授業に関する情報なども聞くことができず、進級に対する不安をもって授業の選択や、授業を受けていた覚えがあります。しかし、授業を受けていく中で一つ学んだものがあるように思います。それは、勉学に対して大切なのは環境よりも、学ぼうとする意志を持つことです。たとえ対面であっても、ただ授業を聞いているだけでは有意義な時間を過ごしているとは言えません。学ぶ環境が変わったからといって学べないわけではないということを痛感したように思います。このことは、二年生の勉強に対しても言えることでした。二年生の授業は、一年生のころと比べると、本格的な医学の授業になりました。身体の生理機能について、ほかにも骨や筋肉、神経の名前、機能など様々なことについて学んできました。そのどれもが、医学についてまだ何も知らない僕にとっては興味深いもので、また理解するのに非常に苦勞するものばかりでした。しかも、二年時の授業は、オンライン授業ばかりでしたので、誰にみられることもないのでさぼろうと思えばいくらでもさぼることができて

青藍会の動き

教授就任のご挨拶



埼玉医科大学医学部教授 総合医療センターリハビリテーション科
大林 茂（おおばやし しげる）
昭和39年2月24日生

略 歴

平成5年3月	徳島大学医学部医学科卒業
平成5年5月	東京医科歯科大学医学部附属病院脳神経外科研修医
平成7年7月	武蔵野赤十字病院脳神経外科医員
平成9年7月	日本学術振興会研究協力者
平成11年5月	東邦大学医学部第一生理学講座助手
平成15年3月	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科認知神経生物学講座講師
平成16年4月	（独）放射線医学総合研究所招聘型任期付研究員
平成18年4月	（独）放射線医学総合研究所チームリーダー
平成21年6月	日本医科大学千葉北総病院リハビリテーション科助教・医員
平成27年6月	日本医科大学千葉北総病院リハビリテーション科部長
平成27年10月	日本医科大学千葉北総病院リハビリテーション科講師
平成29年7月	獨協医科大学越谷病院リハビリテーションセンター准教授
令和3年5月	埼玉医科大学医学部教授総合医療センターリハビリテーション科 （現在に至る）

就任のご挨拶

埼玉医科大学医学部教授 総合医療センターリハビリテーション科
大林 茂（医学部39期）

令和3年5月1日付けで埼玉医科大学医学部教授を拝命しました医学部39期生の大林茂です。この場をお借りして、青藍会会員の先生方に謹んでご挨拶申し上げます。

私は、平成5年徳島大学を卒業後、東京医科歯科大学脳神経外科講座に入局、大学病院、関連病院で臨床経験を積んだ後、機能回復促進のため脳可塑性に注目し基礎研究に没頭し、独自の機能画像研究領域を開拓しました。

その後、脳外科、神経科学研究の両方の経験が活かせる場として平成21年よりリハビリテーション医学で研鑽を積んでまいりました。リハビリテーション科の魅力は研究成果がすぐに診療応用できることです。リサーチマインドをもった若手の育成に努めてまいりたいと考えております。

卒業後は、両親の実家が徳島大学常三島地区近くに残っている為、お盆の時期には帰っていました。懐かしい蔵本地区を訪れ、バドミントン競技に打ち込んだ希望に満ちた若き日の気持ちを思い出してはパワーをもらい、何よりも会報で同窓生諸氏のご活躍で教授が年々増えるたび鼓舞されてきました。

最後になりましたが、青藍会の益々のご発展を祈念致します。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い致します。

病院長就任のご挨拶

ご挨拶

高知赤十字病院院長

谷 田 信 行（医学部28期）



令和3年4月1日から浜口伸正院長の後を受け、病院長に就任いたしました。

私は、昭和57年に徳島大学医学部を卒業後、第三内科学教室に入局、翌年から中村市民病院（現在の四万十市民病院）に3年間赴任しました。その後、第二外科学教室に入局し、外科医に転向しています。当院へは平成7年から3年間赴任後に大学に戻り、平成13年から再度勤務しています。

当院は、南海トラフ大地震に対応できるよう、令和元年5月に新築移転しました。しかし翌年から新型コロナウイルス感染症の影響で、医業収益は減少しています。行政機関との取り決めで、コロナ患者の入院治療は行なわず、専ら三次救急医療機関に徹しているため、いわゆるコロナ補助金の交付は多くありません。

当院は以前、ほとんど徳島大学出身者で占められていましたが、現在は高知大学出身者との混成で、仲良く診療を行なっています。今後とも青藍会の先生方にはご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

ご挨拶

香川県立白鳥病院院長

西 角 彰 良（医学部29期）



令和3年4月1日付けで香川県立白鳥病院院長を拝命いたしました。青藍会の先生方に謹んでご挨拶申し上げます。

私は1983年徳島大学を卒業後、第二内科（森博愛教授）入局しました。高知市立市民病院などの学外出向を除いて、のべ18年半大学内でお世話になりました。2005年香川県立白鳥病院に赴任しました。当院は徳島市と高松市の中間、東かがわ市に位置し、148床の病院です。2010年に現病院に建てられました。前病院長坂東重信先生が第二内科から院長となり、27年間務められました。現在は名誉院長としてサポートしていただいております。以前は徳島大学の関連病院として各科の医師の派遣をしていただいておりますが、残念ながら常勤の派遣医師はいなくなりました。少ない診療科ではありますが、地域の中核病院として、急性期医療から高齢者医療まで幅広い診療を行っております。卒後研修、卒前研修では徳島大学、香川大学の関連施設として微力ながら協力させていただいております。現在は新型コロナウイルス感染症の対応、ワクチン接種などに多くの労力を注がねばならず、難しい病院運営を迫られております。

青藍会では医学部29期の評議員をさせていただいており、会のますますのご発展を祈念しています。先生方の今後も変わらぬご支援をお願い申し上げます。

ご挨拶

国立病院機構徳島病院院長

橋 口 修 二（医学部29期）



令和3年4月1日より、徳島病院長を拝命しました橋口修二です。青藍会の皆様、よろしくお願いいたします。当院は、1939年に傷痍軍人徳島療養所として創立され、1964年に筋ジストロフィー病棟の開棟、80年余の歴史ある病院として、青藍会の皆様に支えられてまいりました。当院は「安全で良質な医療の提供」を基本理念とし、地域医療とセーフティネット医療への貢献が期待されています。政策医療として、四国神経・筋センターの機能を担い、徳島県難病診療分野別拠点病院と徳島県災害医療支援病院の指定を受けています。

人工呼吸器装着の患者さん、いくつもの合併症を抱える患者さんが増加し、急性期病院と密接に医療連携していただいています。筋ジストロフィー患者さんが「一日も早く」待ち望んでいた遺伝子治療も現実のものとなりました。当院は、臨床研究・治験・先進的リハビリテーションを推進し、情報発信力を高め、引き続き徳島大学の医学生実習などにも貢献したいと考えます。

患者さんに信頼される病院として、健全な医療経営、想定外の災害への対策など、事業継続体制に取り組んでまいります。微力ながら、与えられた職務を全うしたい思いですので、青藍会の皆様には、引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

園長就任のご挨拶

徳島赤十字ひのみね総合療育センター園長

加 藤 真 介（医学部30期）



令和3年4月1日に徳島赤十字ひのみね総合療育センターの6代目園長に就任しました加藤真介です。当施設は、昭和34年に県立の肢体不自由児施設（定員40名）として開設されました。日本赤十字社に経営委譲した現在は、医療型障害児入所施設と病院機能を有する社会福祉施設（144床）と、障害者支援施設（50名）が中心ですが、外来での診療・リハビリテーション医療や通所事業も展開しています。開設当初は小児整形外科疾患が中心でしたが、現在は脳性麻痺などの神経疾患がほとんどとなり、18歳以下の方は20%以下となっている一方、外来では発達障害などの方が増えています。

「ひのみね」は父が長く園長を勤め、実家もすぐ近くで子供の頃はよく出入りしていた、私にとっては医師を志した原点ともいえる施設です。徳島大学病院リハビリテーション部教授の任期を3年残しておりましたが、これまでの経験を生かせると考え異動いたしました。

周産期医療の発展や社会情勢の変化により、利用児者像も変わっていきます。これに柔軟に対応して、障害児者のご家族が豊かな生活を送れるように支援していきたいと考えておりますので、青藍会の先生方におかれましてもご指導・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

病院長就任にあたって

徳島県立中央病院長

葉 久 貴 司（医学部31期）



令和3年4月1日に徳島県立中央病院長を拝命しました葉久貴司です。就任にあたり青藍会の皆様にご挨拶させていただきます。

私は、昭和60年に第三内科（現呼吸器・膠原病内科）に入局し、呼吸器内科医として関連病院に勤務の後、大学にて小倉剛教授、曾根三郎教授のもと研究に従事し、当院には平成17年に赴任いたしました。その年に病院事業管理者のもと地方公営企業法全部適用され、翌年にDPC適用病院となるなど大きな変革期を経て、平成24年の新病院移転により、ドクヘリの基地病院として県下全域を網羅できる救命救急センターとなり、発災時にも基幹災害医療センターとして機能できるように整備されました。大学病院とも連絡橋で結ばれ、大学医局との参加型カンファレンスなど研修医教育をはじめ医療レベルの向上につながっています。

就任早々、新型コロナウイルス感染症の対応に追われ、青藍会の皆様にも大変ご心配、ご迷惑をおかけした事を改めてお詫び申し上げます。現在、救急・災害医療の強化を目的としたER棟の基礎工事が始まり、5疾病5事業の政策医療に特化しつつ、新興感染症に対する診療体制も両立し、重責を全うするよう努めて参ります。青藍会の皆様におかれましては、今後とも引き続き、ご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

投稿規定

広報委員会

○ 原稿について

- 必ず、文頭にタイトル、氏名・卒業期をご記載ください。
例 タイトル ○ ○ ○ ○ ○ ○ 山 田 太 郎 (医学部○期)
- 文字数は1,400字以内、写真は1枚でお願いいたします。
なお、写真には見出しあるいは説明文を必ずつけてください。
- 英数字は半角文字で、カタカナは全角文字で入力してください。
- 原稿の文中に登場する氏名及び敬称については、スペースを入れずに記載してください。
(例 山田太郎君 高倉健さん 松下幸之助先生)

○ 原稿及び写真の送付について (青藍会事務局 seiran@tokushima-u.ac.jp)

- 原稿送付は、可能な限りメール添付または電子媒体にてお送りください。
プリントされた写真については、郵送にてお送りください。後日、返送いたします。
- 画像ファイルを送付される場合は、**原稿とは別に、JPEG ファイル等**でお送りください。
原稿 (Word 等) に貼り付けますと、画質が悪くなります。
なお、画像ファイルの容量が大き過ぎますと届かないことがございます。容量を小さくして1枚ずつに分けてお送りください。また、**青藍会事務局からの連絡がなかった場合は、届いていないことが考えられますので、再度確認のご連絡をお願いいたします。**

○ 原稿の締め切り日を厳守願います (次号99号の締め切り日は4月1日 (金) です)

会報の印刷および製本には、原稿をお預かりした後、ゲラ刷り作成、校正、修正、編集会議等で2ヶ月ほどの時間を必要といたします。

締め切り日より遅れた場合は、次号の掲載になりますので予めご了承ください。

○ 編集作業について

- お送りいただきました原稿は語句などに関して広報委員会で校閲させていただきます。その結果、修正をお願いする場合もございますことをご了承ください。
- 用語や表記などの統一のために文章に手を入れることがございます。予めご了承ください。

○ 原稿校正について

- 広報委員会で会報全頁のレイアウト等を校正後、製本前のゲラ刷りを作成しお送りさせていただきますので、著者校正をお願いいたします。
- 校正時の大幅な追記、削除等は、会報発行期日に影響いたしますので、ご遠慮くださいますようお願い申し上げます。

編集後記

2020～2021年の大きな問題はCOVID-19 pandemicです。日本の超過死亡率(excess death)や強制的ではない mild lockdown が国際的に報告されてきました。本邦の実績に加え、歴史や医学、医療、教育、文化、生活習慣などの要因が議論され評価されています。Covid-19は衆議院選挙や菅義偉首相から岸田文雄首相への移行にも影響したようです。今後、感染症の収束を願いつつ、あらゆる医療状況への対応が求められています。

最近、持続可能な開発目標(SDGs)がトピックです。SDGsは2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)で、2015年の国連サミットで採択。17のゴールを含み、2030年までにより良い世界を目指します。嬉しく感じるのは、将来を担う小学生の教育現場でもSDGsに沿って議論されていること。SDGsは私が尊敬する日野原重明先生が提唱するHinohara-ismとの共通項も多く、世界平和への貢献が期待されます。

本会報では医学部の内外における様々な話題が紹介されています。荒瀬会長や赤池医学部長、全国の支部長から医療や医学教育の状況や課題が示され、役員会や各委員会はリモートを活用した会議が行われました。学術講演、助成活動、支部だより、会員通信、大学の動きの概要も掲載されています。意義深い98号がお役にたてば幸いです。

板 東 浩 (医学部27期)

編集 広報委員 橋本 一郎(34期) 大塚 秀樹(40期) 工藤美千代(33期) 高橋 浩子(34期)
田中 克哉(36期) 板東 浩(27期) 森岡 久尚(45期)
学生委員 倉良 詩夢(医学科5年) 福本 和生(医学科5年)

非 売 品 青 藍 会 会 報 第 98 号

令和3年12月3日印刷
令和3年12月10日発行

発行 徳島大学医学部医学科同窓会青藍会
〒770-8503 徳島市蔵本町3丁目18-15
電話 (088) 633-7109 (内線2601)
FAX (088) 633-3180 (青藍会事務室)
E-Mail seiran@tokushima-u.ac.jp
URL <https://www.seirankai-tokushima.jp/>
振替 01680-4-8671
ゆうちょ銀行 一六九店 (169)
当座 0008671 青藍会

発行者 青藍会会長 荒瀬 誠 治

印刷所 グランド印刷株式会社

徳島市万代町6丁目20-15 電話 (088) 622-8448
